

第3期 第5回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第3期 第5回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 令和4年5月26日(木) 午後7時から8時
- 3 会場 Web会議 (Zoom形式)
- 4 出席委員 石島委員、石橋委員(副会長)、伊藤委員、井上委員、工藤委員、鶴岡委員(会長)、
時任委員、中澤委員、檜垣委員 以上9名
- 5 欠席委員 石塚委員、磯崎委員、五明委員、佐瀬委員、滑川委員、村井委員、村上委員、湯原
委員 以上8名
- 6 オブザーバー 桑原障害福祉課長、佐川健康課長、中谷保険年金課長
- 7 事務局 田中介護福祉課長、原田地域ケア係長、池主査、柴田主任
- 8 傍聴人 なし
- 9 次第 第3期 第5回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会

1. 開会

2. 報告

(1) 昨年度実施済みの事業について

①各専門部会について

- ・医療・介護関係者の情報共有(ICT等)専門部会
- ・24時間診療体制確保部会

②多職種研修等について

- ・東久留米市在宅療養相談窓口主催分
- ・東久留米市医師会主催分
- ・東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会共催・主催分

3. 議題

(1) 今年度の多職種研修会について

- ・東久留米市在宅療養相談窓口主催分
- ・東京都地域連携型認知症疾患医療センター 前田病院主催分
- ・東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会主催分

4. その他

10 配布・参考資料一覧

【資料1】昨年度実施済みの事業について（報告1）

【資料2】東久留米市在宅療養相談窓口主催 多職種研修アンケート結果（報告1）

【資料3】令和4年度 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会スケジュール(案)（議題1）

【資料4】今後の多職種研修会について（議題1）

【資料5】第3期 東久留米市在宅医療・介護推進事業 実績（議題1）

1.1 第3期 第5回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の開催

1. 開会

2. 報告（要点のみ筆記）

（1）昨年度実施済みの事業について

【会長】資料1に沿って各委員より報告を願う。各専門部会①医療・介護関係者の情報共有（ICT等）専門部会、②24時間診療体制確保部会について報告を願う。

【委員】まずは、医療・介護関係者の情報共有（ICT等）専門部会について報告する。令和4年2月2日に開催した。今までの活動の振り返りとしては、東久留米市の医療・介護連携の活性化を図るためにMCSというICTツールを使って情報共有をしている。その中で、医療・介護連携ネットワーク「るるめネット」を使い、医療情報や多職種連携の情報共有、様々な会のやりとりなどをし、情報交換が活発化している。「るるめネット」の進捗状況については、利用開始時の2019年10月30日時点と2021年12月20日時点で登録者数が158人増加した。そのうちの増加した職種は、薬剤師、看護師、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士、ケアマネジャー、その他介護職などであり、かなり多職種の方が参加している。「るるめネット」はコロナの情報共有や顔が見えなくても連絡が取れる関係作りとして、非常に有用であり、様々な職種の登録者数が増えていると考えられる。今後について、「るるめネット」の医師の登録者数が伸びていないが、医師会のグループのみでMCSに登録しているケースがある。コロナに関する医師会での情報共有グループでは40名くらい参加されている先生がいるので、「るるめネット」に勧誘して、多職種連携を共有していければよいと考えている。また、私自身も訪問診療で活用しているが、外来の先生からもMCSを使用してから非常に情報共有が活発になり、これがないと不自由だという声も聞いているため、情報共有し、広めていく必要がある。また、歯科医師会や薬剤師会からは、まだICT化が不十分で、情報共有の面でもMCSの利用者、登録者数が少ないためこれから増やしていきたいという声があった。看護師会では「るるめネット」に登録している方が多く、情報共有の場として第一線で活用されている。介護職では、ケアマネ連絡会の中に小さな分科会の部屋が作られており、顔が見えない中での会議や情報交換の場として活用されている。ヘルパー部会では、コロナでなかなか部会自体が開催されず、MC

Sの活用促進の働きかけが少ないが、今後は進めていきたいとの話があった。デイサービスも同様で今後広めていきたいということだった。「るるめネット」以外に「東京都多職種連携ポータルサイト」で医療情報のやり取りができるが、コロナ収束後に検討を考えている。現状できるところでは、情報共有を活性化し、東久留米市内をMC S「るるめネット」で統一することが重要である。

続いて、24時間診療体制確保部会について報告する。令和4年3月4日に行われた24時間診療体制確保部会では、部会長及び副部会長の選任があり、部会長 檜垣委員、副部会長 花崎委員が選出された。24時間診療体制を構築する具体的な取り組みに関しては、やはり多職種連携が大変重要であるが、MC Sなどを活用し、情報共有が可能な体制を構築している状況の中で、かなりできるようになってきている。昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、東京都の在宅療養強化事業として、医師会の医師6名と訪問看護ステーション4か所、薬剤師会の協力を得て、輪番制で在宅療養中のコロナの療養患者または介護保険施設の対応などを24時間体制で行っている。今後の課題については、介護における24時間体制として夜間に吸引が必要な利用者に対応できるヘルパーが少ないことなどがあり、今後皆で考えていく方向となった。また、ハラスメントから職員を守るために、身を守るための能力や技術を磨くためのオンライン研修やグループワークなどを実施していけたらよいと思っている。

次に、「在宅療養ガイドブック」及び「わたしの覚え書きノート」は余りがあるため、病院や訪問看護ステーションで希望があれば、配布することも可能である。「わたしの覚え書きノート」は内容がよく考えられていて、誰でも説明がしやすい。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）は利用者や家族と意思を共有することであり、実際に活用できて非常によかったという声も多数聞かれているので、この活用を進めていきたい。

【会 長】丁寧な説明でよくわかった。何か質問はあるか。MC Sも数が増えて、様々な職種の方が使うようになり、順調に行っていると感じた。

(2) 多職種研修等について

【会 長】次に多職種研修について各委員から報告を願う。まずは東久留米市在宅療養相談窓口分だが、委員が欠席なため、事務局より報告を願う。

【事務局】東久留米市在宅療養相談窓口主催の研修は、「身寄りのない方が亡くなった場合の葬祭・埋葬について」というテーマで、令和4年3月15日にオンライン形式で開催した。前半は市福祉総務課係長からの講義、後半はブレイクアウトルームを利用したグループワークを実施した。参加者は36名で、主にケアマネジャーや病院の相談員の参加が多くあった。詳細は資料2のとおりだが、研修を受けた感想として、医療相談室の担当の方からは「個々の担当者の対応で

なく、病院や組織としての対応をまとめる」、地域のケアマネジャーの方からは、「アセスメントに連絡先を入れているが、聞き取れない場合はそのままにせず、常に聞き取るタイミングを図っていく」や「元気なうちに親族関係を確認しておく」という感想が聞かれた。

【会 長】次に東久留米市医師会主催分について副会長より報告を願う。

【副会長】「新型コロナウイルス感染症対応講演会」を介護関係者2回、医療関係者2回で、2月3日、2月10日、2月17日、2月24日の計4回オンラインで開催した。新型コロナウイルスに関する知識提供が中心となっていたが、この頃はちょうど施設のクラスターが広がっており、施設の感染防御ということも含めて話をした。参加者は資料のとおりで、19名、36名、31名、30名であった。次に介護技術に「ユマニチュード」という手法があるが、その研修会に参加していただくために、医療・介護連携事業の東京都の補助事業の費用負担により、医師会で参加費の助成をした。申し込みは5名であった。コロナでいろいろな研修会がスムーズに行われなかったことや皆さんも参加に一步引いてしまうところもあり、予定した予算が結構残ってしまったという状況であった。

【会 長】続いて、東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会共催・主催分について事務局より報告を願う。

【事務局】『在宅療養を考える映画「いのちの停車場」鑑賞と座談会』を令和4年3月14日にマロニエホールで実施した。当日は、鶴岡会長、石橋副会長、檜垣委員をはじめ、協議会の委員の皆様のご協力をいただき、無事に会を開催することができた。参加者は172名、年齢層としては40代から90代の方が参加されたが、70代が最も多く、次いで60代、80代の参加者が多かった。映画鑑賞については、「概ね満足」「とても満足」と回答した方が大部分だった。感想としては、「終末医療を考えるきっかけになった。」「命のしまい方は人それぞれ。家族とよく話し合うことが大事だと思った。」「先生と患者の信頼関係も大事と思った。」「もっとたくさんの人に見てほしいと思った。」という意見があった。座談会については、「とても参考になった」「参考になった」という方が多数おり、感想としては「わが町で最後まで暮らしたいと思っている。」「東久留米の介護・在宅医療の連携に期待したい。」という意見もあった。また、「地域医療を担う現場の先生の話が聞いて大変よい機会だったと思う。」「『わたしの覚え書きノート』を早速作ってみようと思った。」という声もあった。『在宅療養ガイドブック』を知っていましたか」という問いには、「知らなかった」との答えが半数以上だったが、座談会等終了後に『在宅療養ガイドブック』を活用しようと思いませんか」という問いには、94名が「活用したい」と回答した。この会をきっかけに、「在宅療養ガイドブック」や「わたしの覚え書きノート」をご存じなかった半数以上の方も含め、ほとんどの方が「活用したい」と回答した。映画については、座談会で実際に

登壇した檜垣先生からも会場の反応や当日の様子について報告を願う。

【委員】映画は在宅の今の重要なエッセンスを取り入れ、ゴミ屋敷の老夫婦、小児がんの方、あとは自分の父親の辛い最後のときにどういうふうに見ていくか等の様々なケースに直面した事象から様々なことを考えさせる内容になっており、まさしく命のしまい方をどうしましょうかということにフォーカスし、鶴岡先生と私で座談会をしながら質問を受けた。映画が終わったら皆さん帰ってしまうのかと思っていたが、思った以上にかなりの方が残っていて、話を聞いてもらった。その中で、鶴岡先生にフォローしていただきながら、東久留米市の在宅医療はこんなことまでできるということをお伝えできた。また、映画の製作に関わった観点から自分の終末期をどのように考えようかということについても鶴岡先生から話があり、市民に声が届いた座談会になったと思っている。「わたしの覚え書きノート」のことも紹介し、アンケート結果のとおり興味を持っていただけたので、よい入口になったのではないかと考えている。

【事務局】続いて、医療・介護の安全「介護現場における『ケアの安全』と『リスク管理』～事故報告書から考える介護事故防止のポイント～」ということで、令和4年3月16日にオンラインとオンライン環境のない方は対面というハイブリット方式で講演会を開催した。33名の参加があり、ケアマネジャー、デイサービス、訪問看護、グループホームの職員の方等の参加があった。「業務に活かせると思いますか」という問いには、ほとんどの方から「とても活用できる」という感想をもらった。また、内容についての感想では、「介護現場におけるハラスメントについてのパンフレットを契約時に配布していると聞き、活用したい。」「ヒヤリハットを書く上で、どういった要因を書かなければいけないのか具体的でわかりやすかった。」「職員・社員を守るためにも、事故報告書を忘れずに提出しなければならないと思う。」という意見があった。講師の先生が防災士の資格も持っていらっしゃるということで、BCPについての話もあり、「BCPのガイドラインは知っていたが、この講習をきっかけにまず作成してみようと思った。」という感想もあった。

【会長】報告について、意見や感想があったら出してほしい。

【委員】私も「いのちの停車場」でスタッフとして席案内などをさせていただいたが、予約がネット予約だったこともあり、友達同士がバラバラになってしまったという意見があった。マロニエホールは足場が悪く、段差もあり、80代、90代の方には設備的に大変だったのではという印象はあるが、皆さん帰るときには笑顔で、「いろいろ考えてみます」と言っていたので、すごくよいきっかけになったと思う。無料で観られてよかったし、とてもよい映画で、続編を期待している。

【会長】確かに構造上の問題等、大変重要な指摘をいただいた。私も登壇させていただいたの

で、大変印象に残っているが、最初の副会長の挨拶で「涙腺が緩んだ」というようなイントロがあり、会場に来られた方がガーッと映画に引き込まれるような石橋先生のマジックにかかったのではないかと感じた。後日談で、実は吉永小百合さんから私のところに「上映会を開催していただき、心より感謝申し上げます。」というカードが直筆で届いて、びっくりした。今日お見せしようとして、持ってくるのを忘れてしまったが、富永プロデューサーに来ていただいたので、吉永さんの耳に伝わったのだろう。「東久留米市はじめ、スタッフに感謝申し上げます」ということだった。

3. 議題

(1) 今年度の多職種研修会について

【会 長】今年度の多職種研修会について事務局より説明を願う。

【事務局】東久留米市在宅療養相談窓口主催分の研修会を今年度も予定しており、テーマ等は未定である。東京都地域連携型認知症疾患医療センター前田病院主催分については、認知症に関するテーマだが、こちらも詳細は未定である。東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会主催分の研修会を今年度1回から2回開催したいと考えている。

【会 長】これから皆さんと意見交換をしたいのは、東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会主催分である。今年度こういった企画をやるかを話し合いたい。

【委 員】個人的なテーマとして、災害がとても身近になっていて、BCPのこと、いかに災害に対して意識を持っていくか、具体的な動きとして何ができるかについて考えたい。こういった形で開催すればよいかかわからないが、市民の方とともにあるいは市として在宅医療介護連携として考える機会があったらよいと思う。

【委 員】NHKで「直下型地震が起きたときには」というテーマの番組が放映されたときに、準備していないと思ったことと自分の家に大地震が起きたときの安否確認のために「今、私はどこにいます」というカードを玄関の扉に出しなさいという情報があったので、身近に考えていきたいテーマだと思う。

【委 員】身体的には問題なく、要介護度があまり上がらないが、認知症がすごく進んでいるという方がいつも市役所に行き、銀行に行き、薬局に寄るというコースで、徘徊してしまう。我々の薬局にいらっしゃったら、ケアマネジャーや地域包括支援センターの担当に連絡できるし、商店街の方や銀行の方も連絡できるため、市民の方に徘徊している人の対応の仕方、地域包括支援センターの窓口についてより周知したい。その方は動けるので、いろいろなところに行き、認知症の症状によりすごく暴れたりするが、皆が拒否するのではなく、適切なところに連絡できれば、その方がスムーズに家に帰れたり、病院に行けると思う。当事者だけではなく、市民の方に認知

症の対応を周知していきたい。

【会 長】 地域の方に認知症の方の見守り、対応を周知していく企画ということか。

【委 員】 コロナ渦になり、3年目というところで、今まではコロナを理由に引きこもっていたが、認知症状が進んでしまった、転んで骨折した、コロナだからと言ってられないという相談が、とても増えている。介護保険の申請がかなり増えて、追いつかないということがあり、コロナ後の高齢者への影響がかなり大きい。コロナに感染することもとても怖い、コロナにより外出しなくなったことの影響の方がかなり大きくなっているように感じ、さらに相談件数も増えている。コロナの影響が分からないが、病院に行かなくて気がついたらガンの末期だったという方もいて、コロナで外出しなくなったことによる影響についての研修ができればよいと思っている。

【会 長】 ポストコロナへ向けて、認知症の方だけでなく、コロナによる高齢者への影響に今後どのように対応していけばよいかという企画だろうか。

【委 員】 最近メディア等でもコロナの最新情報等がなかなか流れてこないのが実情であると思う。以前、コロナに対する最新情報等の提供や対応方法については指導があったが、再度研修をしていただけたらと思う。また、身寄りのない高齢者が多くなってきていて、成年後見人制度の活用方法を周知できるような研修があればと思う。

【会 長】 一点目がコロナのおさらい、二点目が身寄りのない方などを含めた成年後見制度に対する多職種連携の企画ということか。

【委 員】 これは市民向けの企画かそれとも多職種向けの企画か。

【事務局】 多職種向けの企画である。

【委 員】 災害時の連携というところでは、先ほど提案のあったように、少し意識が薄くなっていると感じるので、研修できればよいと思う。

【委 員】 医療介護従事者向けで、先ほど意見の出た徘徊している高齢者向けの対応についての研修がよいと思う。私も一昨年に小山のあたりで転倒し、血だらけの高齢者を迷い人かと思い、東部包括支援センターへ電話したことがあり、管理者ではなく、一般的な介護従業者がどこに連絡すればよいか、どういう対応がよいかの研修があると高齢者を見る目が増えるのではないかと思う。

【会 長】 最後に、副会長はいかがか。

【副会長】 東久留米市医師会として今年度取り組まなくてはならない事業としてコロナ対策がある。新型コロナウイルスに対する様々な新しい治験を含めた研修会とできるだけ実地研修会とされている感染防御のための研修会の2つは実施しなくてはいけないので、医師会としての企画をよければ在宅医療・介護連携推進協議会との共催という形にするのはいかがか。感染防御の

仕方等については医師だけでなく、多職種も一緒によいと思うので、多職種研修の一つとして共催の形にさせていただけるとよいと思う。コロナについての様々な情報提供の研修会もやっていくことになると思う。その中でコロナによる影響にどう取り組んでいけばよいのかについての話ができると思う。特に、今後オミクロン株が広がり、BA.2.12.1やBA.5などと様々に言われているが、結局コロナの症状は軽症化していくので、その中で我々が、ウィズコロナもしくはポストコロナにどのように対応していけばよいのか、今までのようなクラスターにどう対応していくのかを整理し、皆さんと一緒に勉強する機会を作っていければと思っている。これらの研修を本協議会だけでやるのは大変なので、医師会としても共催という形で進めていければと思っている。また、災害への取り組みについては、別で動いており、先日東京都より急性期、災害直後、その後のフェーズに合わせた対応の仕方についての発表があった。災害対策については防災防犯課と健康課と医師会が定期的に会合を開き、東京都や二次医療圏（北多摩北部医療圏）での災害医療に対する連携の仕方、どのような形で災害訓練をするか、研修会、一般市民向けの講演会等について考えていくことになっている。今年度はプラスして東京都のモデル事業があり、東京都全体の中の災害医療の連携システムの中でどのようにしていくかを検討し、実地訓練を行うことになっている。特に障害を持った方や高齢者には二次避難所があるが、その避難所の中でどう対応していくかも一度きっちり考えていかなければいけない。災害対策のことは、本協議会として行うよりも市の防災対策の中で行なっていくことになると思う。また、市の大きな災害訓練があり、それにプラスして医療に関してはまた別のところで2つ同時に動いているのがコロナ前であった。急性期の対応訓練やその後の対応をどうするか訓練をやっていかないといけないため、今年は実際の訓練ができると期待している。そのときには介護関係の方々とも一緒にできるとよいと思っている。さらに認知症対応の取り組みに関しては、認知症関連の委員会があり、そちらで企画があるし、認知症初期集中支援チームの会議などを毎月実施している。東久留米市の場合は、二次医療圏で山田病院が認知症疾患医療センターの基幹型になっており、前田病院が東久留米市内の認知症疾患医療センターの連携型になっているというシステムができあがっている。その中で、市民向けの講演会等も含めて実施しているため、本協議会として一緒に取り組んでいくとよいかと思っている。様々な事業が重層化しているので、情報共有しながら地域の中で行なっていければよいと思っている。

【会長】意見が出なかった場合に事務局で考えていたことがあれば、教えてほしい。

【事務局】専門職の方から「わたしの覚え書きノート」をどうやって進めていけばよいかわからないという声があったので、東京都でACPの冊子を作っている先生を講師に招き、専門職向けの講演会を実施してもよいかと思っていた。しかし、委員の方から多くの意見が出て、ポストコ

ロナやコロナ対策についても副会長から話があったため、医師会と共催という形で開催していければよいと思う。また、認知症で徘徊してしまうケースの話も出ていたが、市民向けに関しては、市で認知症に関する講演会や認知症サポーター養成講座の出前講座を行なっている。多職種向けでは、主催または認知症疾患医療センターとの共催で専門職の方の具体的な対応に焦点を絞った内容で開催してもよいかと皆さんの話を聞いて事務局としては考えている。

【会 長】本来ならここでどうするか決めなければならないが、時間の関係もあり、副会長と事務局から整理するような意見が多く出てきたため、東久留米市の他の事業との兼ね合いを整理してもらい、本協議会でできそうなものを企画していく方向で事務局に一旦お任せする形でもよろしいか。

【事務局】事務局で本日の内容を整理し、相談させていただければと思う。

【会 長】ではこの方向で今年度進めていきたいので、よろしく願います。

(2) 令和4年度年間計画について

【会 長】続いて、年間計画について事務局から説明を願いたい。

【事務局】資料3「令和4年度在宅医療・介護連携推進協議会スケジュール(案)」に沿って説明する。令和4年度に関しては、ガイドブックの更新と課題検討アンケートの実施、多職種研修の実施を予定している。(ア)から(ク)までの事業を実施することになっているが、(ク)の事業に関しては、保健所で5市の連携ということで、連絡会を開催してもらうことになっている。在宅療養ガイドブックを今年度も委員の方に協力いただき、令和5年の1月から3月にかけてリストアップと更新作業を行っていききたい。(イ)の課題抽出については、5月と9月と1月の概ね3回の開催を予定している本協議会の中で、課題検討アンケートの内容を検討させていただき、そのアンケートを第4四半期で発送していききたい。(ウ)切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築推進については、24時間診療体制確保部会を年1回開催できればと思っている。(エ)医療・介護関係者の情報共有の支援については、情報共有専門部会を年1回開催できればと考えている。(カ)については、先ほど多職種研修で検討させていただいたが、在宅療養相談窓口と認知症疾患医療センターと本協議会の主催及び共催で研修会を開催していきたいと考えている。

【会 長】年間計画について、何か質問はあるか。

【委 員】ない。

4. その他

【会 長】その他について、事務局より説明を願いたい。

【事務局】資料5「第3期 本協議会の実績」を配布したので、お目通しいただけたらと思う。今回の委員の方の任期が8月で満了になるため、次回の協議会からは新委員の方に交代となる。

後任の委員の方への引継ぎについてご協力をお願いしたい。

【会 長】これで本日の協議会の議題はすべて終了となる。なお、次回については9月の開催を予定している。これをもって、第3期第5回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会を終了させていただく。